

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

佐野高校の使命

Education is not the filling of a pail, but the lighting of a fire ~William Butler Yeats

- ① 自立心と進取の気概の育成
- ② フェアなルール感覚の育成
- ③ 多文化共生・国際理解教育の推進

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒の「学習するチカラ」の育成に重点をおいた授業づくりを推進する。
 - ①「授業の構造化」に取り組み、意識的・客観的に授業を見つめ直し「言語活動の充実」をめざす。
 - ②生徒の授業アンケートで「授業に工夫を感じる」との回答が肯定感80%達成した。今後もこの状況を維持できるよう取り組む。
 - ③平成27年度につづき、教科横断型の教員組織で「学習力向上グループ」を編成し、授業研究等を行い「研修まとめ」を刊行する。
- (2) 生徒にはクラブ活動・生徒会活動等を強く奨励する一方、学校での学習を強め、家庭学習の習慣が身につくように環境を整えていく。
※部顧問、教科、学年、進路が連携し、家庭学習時間確保等の具体的なプログラムを作成する。(例：WEBを活用した動画視聴による学習)
※現在1年生(70期)平日平均学習時間53分、休日平均学習時間87分。2年生(69期)平日48分、休日74分。部活動との両立を高い次元で実現し、平日平均家庭等学習時間90分、休日平均家庭等学習時間130分を目標とする。
- (3) 「キャリアスタディ(CS)」(総合的な学習の時間)のリニューアルなどキャリア教育の充実で生徒を動機付ける。
※学校教育自己診断(生徒)での進路指導への肯定感80%達成(平成30年度)←現在61.1%
- (4) 国際教養科の独自化をめざし、アウトプットを重視した実践的な英語教育と国際理解教育を一層推進する。
 - ①積極的交流、資格試験合格率アップをめざす。(実用英語検定全員受験の継続)
※卒業時までに1学年中50名の英検2級以上取得者(平成29年度末)
 - ②国際教養課の特色化を更に推進するプランニングをおこない、平成29年度実施をめざす。
※視察・研修 SGH校5校以上、高大連携の調査研究で大学3校以上
- (5) 平成27年度 学校経営推進費事業により、第1学年・第2学年の普通教室18教室及び特別教室等に短焦点プロジェクター(電子黒板機能付き)を導入、さらに自習室を中心に無線LAN環境を整備することでICTや教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。
※4年制大学 希望進路達成率(第2志望含む)を平成29年度末には85%を達成する。

2 5つの基礎力(対人基礎力、對自己基礎力、対課題基礎力、処理力、思考力)を育成する事で自立し、自律できる生徒の育成

- (1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。
※加入率が70%の状態が続いているが、80%をめざす。
- (2) 国際交流、地域交流、を推進する。「人権」、「国際理解(協力)」、「ESD」等の価値観に関する教育を通じて、課題解決能力を獲得させる。
- (3) 生徒会活動の活発化を図り、その中から、生徒自らによるコミュニケーション力育成、課題解決能力育成を期す。

3 シチズンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる学校づくり

- (1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育も十分に行い将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。
※学校生活に対する満足度は従来から高く、これは維持していく。
※進路結果に対する満足度を調査していく。(3年時当初の進路第1希望の達成度を調査)
- (2) 当たり前のこととして、遅刻・服装指導等の基本的な生活習慣、清潔で美しい学校作り、自宅学習時間の確保を考える。
※遅刻や欠席を生徒のシグナルと捉え、生徒支援を丁寧に推進する。
※生徒会活動を支援し、行事や校内環境整備が活発に行えるようにする。そのことを通じて課題解決能力、コミュニケーション能力、自尊感情等の育成をめざす。
- (3) 情報発信を重要視。可能な限り多くの機会をとらえ、情報発信し、学校を理解してもらうように努める。
※保護者、生徒、受験生の知りたい情報を発信できるよう校内組織を確立。
※全教職員、全生徒が学校の広報を担う意識を持ち、自尊感情の育成を行う。
- (4) 新たな学校づくりへの挑戦
従前の課題解決委員会を休止し、「UNESCO スクールプランニング委員会」(仮称)を発足させる。
2-(2)の通り「シチズンシップ」「ESD」「人権教育」を柱としたUNESCOスクールをめざす。グローバル化の先にある価値観を提供できるよう研鑽に努め、新たな学校づくりに挑戦する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
佐野高校 学校教育自己診断アンケート (生徒用)1月14日(水)実施 (保護者用)12月7日(水)～14日(水)実施 (教職員用)1月11日(火)～18日(火)実施 主な集計結果	第1回目 平成28年6月4日(土) (協議委員の発言より) 授業見学で ○生徒が落ち着いている。私語もなく、教員の工夫もみられた。 ○教室が狭く、体育館の老朽化が進んでいるが、職員室前廊下の工夫などが多く見られた。 取り組みへのご意見

府立佐野高等学校

<p>「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた肯定感が高く生徒において昨年度よりも増えている主なものは</p> <p>① 「学校へ行くのが楽しい」生徒 84% 保護者 88.4%</p> <p>② 「部活動と学習の両立」生徒 74% 保護者 77.7%</p> <p>③ 「教え方を工夫している先生が多い」生徒 66.3%</p> <p>④ 「先生に質問しやすい」生徒 70.1%</p> <p>⑤ 「学習の評価については納得できる」生徒 84%</p> <p>⑥ 「心身の健康について配慮してくれている」生徒 68.5% 保護者 72%</p> <p>⑦ 「環境、国際理解、人権や福祉について学ぶ機会がある」生徒 77.1% 保護者 85.5%</p> <p>⑧ 「学校で火事や地震、事件などの時どう行動すればよいか」生徒 86.4% 保護者 72.8%</p> <p>昨年度低かったがかなり伸びたものは</p> <p>○「校舎や設備について」の肯定感 生徒 42.5%→55.4%で+12.9 保護者 41%→55.5%で+14.5の伸びである。</p> <p>そのほかの項目はあまり変化なく 80%を超える高い肯定感を維持しているものも多数あり、生徒の場合はすべて 60%以上を維持している。保護者の場合は「土曜日の授業参観」52.5%であるほかは、同様である。</p> <p>概ね学校へ行くのが楽しい生徒が多く、授業もわかりやすい方だと感じている。様々な取り組みも肯定感が高く今年度力を入れた校舎や設備の老朽化への対応は顕著な効果があったといえる。</p> <p>授業への工夫も ICT だけでなくペア学習、グループ学習やグループでの話し合いなどを取り入れる教科が増えたため、「教え方に工夫している先生が多い」の肯定感が伸びていると思われる。</p> <p>「佐野高校には、他の学校にない良さ(特色)がある」は生徒 63.7%保護者 75.4%と肯定感が高いが昨年度より下がっており、新たな取り組みを探る必要がある。</p>	<p>○修学旅行について、家庭によって旅行に行くことができない家庭もあるため、修学旅行はチャンスとも考えられる。</p> <p>○生徒がウェルカムされている工夫が見られる。生徒が答えたくなるような授業や丁寧な対応、人権尊重のシーン等を見ることができてよかった。背を向けて話していたのは残念だが。</p> <p>○進学躍進については3年間の学校改革を進めてきた職員の統一した取り組みの成果が現れている。修学旅行や語学研修の習慣化、位置づけ等の再検討をし、子供の為にマイナーチェンジをするのもよいのでは。また昨今の情勢で海外における危機管理体制が重要になっている。</p> <p>○小・中へのカンボジアの報告会はよい取り組みでたいへん楽しみにしている。修学旅行についてはなくなるという噂だけが広がる可能性があるため、伝え方を考える必要がある。</p> <p>○大学進学率が上がったのは喜ばしい。普通科は多様な選択ができるというのがよい。関空が日本の玄関という状況で、国際化、国際交流で先進的に努力しているのが分かる。英検の合格率が上昇していることも喜ばしい。りんくう航空高等学校で管制官になる等、いろんな仕事ができる状況にある。国際的人材育成を特化するのも1つでは?地元の人間としては「よくしていただいている」と考えており、佐野地域が注目している。</p> <p>第2回目 平成28年10月29日(土) (協議委員の発言より)</p> <p>○生徒会・部活動について、パンフレット作成は良い取り組み。一度部活を辞めた生徒がその後部活に入らないのはもったいない。再度他のクラブに参加できる案はどうか。</p> <p>○教員が、授業内容にかかわらず、人生観や経験談について伝えることも時に重要。</p> <p>○表面的学校改革でなく、根源からの探究的学習スタイルに取り組む姿勢を応援したい。</p> <p>○ユネスコスクール、大阪府下で見ても、頭一つ出た取り組みを行っている。今後とも発展を期待したい。</p> <p>○1つの大きな目標を核に教育課程や行事等を考えなおしたカリキュラムをすすめていけばよいのでは。</p> <p>○「つけないといけない力はなにか」をより具体的に考えていくことで、全体的に学校の質を向上させることができる。他からテクニカルな技術を用いるだけでなく、根幹の目標をもう少し明瞭にすべき。</p> <p>○知識の上を行くものを目標として持ち、総合的な何かをめざす場合に必要な力の育成を図るとよいのではないか。</p> <p>○英検は目標を持って取り組んでいる姿勢がよい。</p> <p>○スポーツもインターハイ出場など、高い目標を持って頑張っている様子が頼もしい。</p> <p>○データを見ても進路状況良好と取れる。</p> <p>○キャリア教育については、多様なスタイルで生徒を支援することが重要。現場で働く人の話を聞かせたり、セミナーに参加することも視野を広げる一つの方法。</p> <p>○ユネスコスクールとしての取り組み、位置づけについて、地元の子どもたちにどう浸透させるかを検討させる取り組みが必要とされる。</p> <p>第3回目 平成29年1月28日(土) (協議委員の発言より)</p> <p>○アンケートの「進路選択の際にCSの学習内容は役に立つと思う」の評価で学年が上がるにつれ肯定的な意見が減っており、学年が上がっても役に立つ内容のリニューアルが必要。</p> <p>○全体で見ると図書館を利用しやすいという評価が減り、普通科と国際科の評価の差も大きい。生徒がもっと利用しやすいように、普通科でも図書館利用の推奨をしてみてもどうか。</p> <p>○アンケートの「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」「環境、国際理解、人権や福祉について学ぶ機会がある」「佐野高校にはほかの学校にない良さがある」などの評価において国際教養科のほうが普通科に比べて高い。</p> <p>自分の考えをアウトプットする機会が多い国際教養科の授業のありかたを普通科でも取り入れてはどうか。</p> <p>○教員の研修を教員主導で研修を行っている取り組みのためか、先生方に活気があり、生徒も前向きで明るい印象がある。様々な改革も結果が出ている。工事内容も安心安全な学習の環境を整えている。佐野高校には地元として、空港を中心とした国際都市として発展につながる取り組みをしていただきたい。</p> <p>○遅刻の減少は教員の指導の賜物。佐野高校だけの話では無いが、校内でのあいさつを。</p> <p>○様々な改革によって、右肩上がりに結果が出ている。ひとつのことを継続して行っていく上で、積み上げていくと、ノウハウは良いものにはなるが、ともすれば毎年の繰り返しとなり当初の目標や思いが教員間で共有出来ない恐れがある。長年の取り組みが馴れてくると陳腐化していく。「なぜこれが必要か」ということも伝え、改革を絶やさないでいただきたい。</p> <p>○部活動の交流、中学校と高校などの練習する機会をつくって欲しい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況
1 確かな学力の育成	(1) 授業改革 授業の構造化と生徒の「学習力」向上を推進する	(1) (あ)「言語活動の充実」を図るなかで、生徒の学習意欲を高めるため研修やその他工夫を行う。 (い) 学習向上グループを構成し、教科横断的な授業研究や研修等を実施する。各グループのリーダーは再任用教諭がつとめる。 全国の先進的な取り組みに学び、研鑽する機会を設ける。	(1) (あ) 授業に対する工夫度に対する肯定感の向上→80%を維持する) (い)「考えをまとめたり、発表する機会がある」授業に対する肯定感70%をめざす。	(1) (あ) 第2回授業アンケートで、「授業に対する生徒の評価ー教材活用」で、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると79.6%となり、ほぼ達成する。【○】 (い) 学校教育自己診断で、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると60.2%昨年度(52.8%)より7.4増となり、着実に増えている。【◎】 学習向上グループを6構成しチームリーダーとマネージャーをもとに訪問先を決定し訪問を実施、年間活動報告会を2月に実施予定。【○】
	(2) 学習改革 部活動と学習の両立 学習意欲を高める工夫	(2) (あ) あらたな高大接続テストに対応し、「わかる学力」と「できる学力」を身につけるための方策を開発する。 (い) 生徒の学習意欲を向上させるメソッドの開発を行う。(ユニバーサルデザインを取り入れた学びの空間づくりを行うなど) (う) 高校生として学習する方法や習慣を身につけるための手段を講じる。(週末課題や自習室開設など)そのため、学習診断の機会に学習時間やその他生徒状況を把握する。 (え) キャリア教育を通じて、学習の動機付けを行う。	(2) (あ) 標準的な学習・学力指標である「佐野高校スタンダード」を作成する。 (い) 授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」の項目が3.1以上(27年3.07) (う) 家庭学習時間を平均で平日・休日とも30分以上伸ばす。	(2) (あ) H29年度版の観点別シラバスを試作し、より良いものへ各教科で共有し改善する。「佐野高校スタンダード」も引き続き協議し、次年度まとめることになる。【△】 (い) 第2回授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」は、第1回と変わらず3.06。【○】 (う) 自習室を利用する生徒が増えている。3年の受験勉強だけでなく、1年2年の週末課題などにも利用されており質問も増加している。 9月に実施した学習時間の調査は前年度の同じ学年と比べて、平日が1年が1分、2年が5分増加している。【○】
	(3) 英語検定等の取組みの強化	(3) (あ) 英語検定については、準2級・2級の全員受験を実施する。またより実力のある生徒にはTOEIC、TOEFL等へのチャレンジをサポートする。英語検定については、教科の授業において指導とサポートを実施する。 全員受験を効果的に進め、英語検定の定着とスタンダードを確立する	(3) (あ) 英検において、3学年卒業時に、2級以上合格者40名上をめざす。	(3) (あ) 英語検定年間成績 1級=1名、準1級=4名 2級=94名、準2級198名 【◎】
	(4) ICTや教育産業のコンテンツの活用による質の高い授業と講習	(4) (あ) 平成27年度 学校経営推進費事業により、第1学年・第2学年の普通教室18教室及び特別教室等に短焦点プロジェクター(電子黒板機能付き)の導入し、自習室を中心に無線LAN環境を整備した。 ICTや教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。	(4) (あ) 4年制大学への希望進路達成率(第2志望含む)を29年度末までに85%達成する。	(4) (あ) 今回設置したプロジェクター使用状況の調査結果は「大体使える」「少し使える」を合わせて66%。 また、「使用した」35%であった。 使用しない理由は、「準備に時間がかかる」41%「接続や使用方法がわかりにくい」22%であった。 学校教育自己診断で、「教え方を工夫している先生が多い」の項目で「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると66.3%昨年度より2.9ポイント増加。【○】

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 5つの基礎力を育成する事で自立し、自律できる生徒の育成</p>	<p>(1) 国際交流 【対人基礎力・処理力】の伸長</p>	<p>(1) (あ) 国際教養科の専門的な国際交流は現状を維持発展させる。普通科における交流は生徒会中心の国際交流員会での取組みを強化する。 また、海外修学旅行についても調査研究を進める。(佐野高校スタンダードとしての修学旅行・海外研修を創る)</p>	<p>(1) (あ) 国際理解教育等への肯定感向上 (27年度 75%)</p>	<p>(1) (あ) 今年度もイギリス・オーストラリアの語学研修を実施し大きな成果をあげて終えることができた。来年度はフィンランドの交換短期留学とオーストラリア語学研修を実施する。</p>
	<p>(2) 生徒会活動 【対人基礎力・対課題基礎力】の伸長</p>	<p>(い) ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行うとともに、校内においてもその取組みが共有財産になるようにする。ユネスコスクールとしての学びを全校で行えるように人権学習等の計画を調整(各学年少なくとも年1回以上)する。 また、「学習力向上グループ」の取組みの中で、UNESCO スクールのあり方についても調査研究する。</p>	<p>(い) 同上</p>	<p>修学旅行については、2 学科とも同一地で別メニューを実施、以後 3 か年はグアム島とする。 学校教育自己診断での「国際理科教育」推進への肯定感 77.1%【◎】</p>
	<p>(3) 部活動 【對自己基礎力・思考力】の伸長</p>	<p>(2) (あ) 限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活性化させる。 (い) 佐野支援学校との交流などに取り組めるようにする。</p> <p>(3) (あ) 部活動の奨励はもちろんだが、学習活動とのバランスについて丁寧に指導する。 (い) 部活動生徒への自尊感情育成を通じて連帯感を高め、学校の求心力として育む。そのために定期的に全部員会合などの機会を設けて指導する</p>	<p>2) (あ) 生徒会活動への肯定感の向上(27年度 8.3%)</p>	<p>(い) ユネスコスクールとしての活動など、国際理解教育推進は軌道に乗ってきている。1 月カンボジアスタディーツアー実施。 「少年兵」や「児童婚」、途上国支援など世界を理解する学習に力を注いだ。 また、開発教育の研修会等に積極的に参加した。</p>

【◎】
(2)
(あ) 学校教育自己診断では「文化祭や体育祭など生徒会の活動が活発である」の項目が「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると 80.9%となり依然 80%以上を保つ。

【○】
(3)
(あ) 下校時間を守らせることで、「両立できる時間」が確保されている。ノークラブデー(部活動休養日)も 1 月から試行実施した。部活顧問からの学習への指導もみられる。

学校教育自己診断では「佐野高生は部活動と学習の両立ができていと思う」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると 74.0%昨年度より 1.1 ポイント増で目標達成する。生徒指標「よくあてはまる」22.3% 昨年度より 5 ポイント増加。【◎】

(い) 部活動活性化委員会を中心に活動を顕彰したり、部長会合を行ったりすることができた。【○】

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 シキスマンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる学校づくり</p>	<p>(1) 規範意識の醸成と成長を促す</p>	<p>(1) (あ) 遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。 (い) 高校 1 年生の母校訪問を含め、中学生から「あこがれられる」高校生としてのあり方を追求する。 *ボランティアや出前授業など</p>	<p>(1) (あ) 年間総遅刻数が 2000 回を目標とする。</p>	<p>(1) (あ) 8/31 までの遅刻者の総数は 695(昨年同時期、981)で昨年度より 286 減である。どの学年も昨年度比 100 名弱の減少である。全体として、生徒、教師が遅刻指導に対して「慣れ」に陥らないよう、注意喚起をした。 12 月末までの総数は 1709(昨年同時期、2165)で昨年度より -456 人である。 このまま指導を継続予定である。【◎】 (い) 挨拶をする生徒の数が増えているように思われ、このまま地道な声かけ指導を続けていく。</p>
	<p>2) 「来てよかった学校」づくり</p>	<p>(2) (あ) 従来からの学校生活に対しての高い満足度を維持する。 (い) 卒業時に進路満足度調査を行い、進路獲得の満足度を調査する。 (う) 入学時の学力調査との比較を行い、伸び率が最大になるように学習産業を活用したデータをもとに指導する。また、学習環境調査も活用して、学びの環境づくり(人間関係や施設など)に尽力する</p>	<p>(2) (あ) 学校教育自己診断アンケートによる満足感 90%をめざす。(27 年度 80.2%) (い) 3 年次 8 月の第 1 志望の進路希望先に対する達成度(3 月末時点)</p>	<p>(2) (あ) 学校教育自己診断では「学校へ行くのが楽しい」で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の両方を合わせると 84.0%となり、達成はしていないが、昨年度より 3.8 ポイント増で満足の数値である。【◎】 (い) 3 年次 3 月末時点の第 2 志望までの進路希望先に対する達成度は 55.7%であった。【△】 (う) 学習産業を活用したデータを分析し、入学時からの学習状況や学力到達度の変化をもとに面談や受験相談を今年度も実施した。生徒の学力と受験先とのミスマッチを防ぐのに大いに役立っており、今年度もさらにデータを蓄積して次年度以降も活用する予定。【○】</p>
	<p>(3) 積極的な広報</p>	<p>(3) (あ) 全員で広報する体制をさらに強化する。 (い) 広報スタイルをさらにブラッシュアップする。さらに広報媒体(チラシ・リーフレット、WEB)の刷新を行う。</p>	<p>(3) 学校説明会や体験授業の参加者がのべ 900 人をめざす。</p>	<p>(3) (あ) ベテランから新任まで偏ることなく分担して対応。 タブレット端末や部活動紹介のビデオやチラシを制作し学校説明会で配布。 (い) マイナー改定した新しい学校パンフレットを作成 (う) 新高校入試に対応して、志願するときの注意点やセールスポイントを整理した。 校内での説明会は 8 月 10 月 1 月の計 4 回でのべ約 840 人、外部では約 200 人となり目標達成。【○】</p>
	<p>(4) 新たな学校づくりへの挑戦</p>	<p>(4) (あ) 学校全体の人権教育のあり方や国際理解教育のあり方の中心に UNESCO スクールの取り組みを据え、それを実施できる校内体制を確立する。</p>	<p>(4) (あ) 学内公募で委員を任命。調査研究と報告研修会を実施する。校内組織の改編</p>	<p>(4) (あ) 2 月に実施した「学習力向上グループ」の取り組み報告会で 2 つのグループがユネスコスクールの取り組みについて、研修発表した。 現状維持。【△】</p>